

一般社団法人 日本計算工学会平成 23 年度通常総会

平成 23 年 5 月 19 日 (木)

ミュージア川崎 市民交流室

総 会 議 事 次 第

第 I 部

議 事

第 1 号議案	平成 22 年度事業報告案
第 2 号議案	平成 22 年度収支決算報告案
第 3 号議案	平成 22 年度監査報告
第 4 号議案	平成 23 年度事業計画案
第 5 号議案	平成 23 年度収支予算案
第 6 号議案	その他

第 II 部

表 彰 式	平成 22 年度 学会賞授賞授与
-------	------------------

【第 1 号議案】

平成 22 年度

事業報告書

自 平成 22 年 4 月 1 日

至 平成 23 年 3 月 31 日

(第1号議案)

平成22年度事業報告

1. 通常総会の開催

平成22年度通常総会を、平成22年6月23日に、日本青年館ホテルで開催した。

『「ものづくりのための計算工学」を目指して』と題したシンポジウムを開催、物理モデリングの重要性とその方法を特集テーマとし、基調講演として、材料のモデリング（福山大学：井上達雄先生）、トライボロジーのモデリング（東京理科大学：佐々木信也先生）、システムのモデリング（慶應義塾大学：足立修一先生）を行った。また、ものづくり研究会の活動計画に関して報告した。

2. 理事会の開催

平成22年度の理事会は、7/6、9/9、11/10、1/12、3/28、5/11の6回開催した。

3. 表彰

表彰制度の運用について一部見直し、表彰委員会にて審査し、平成22年度の該当者選考を行った。

計算工学大賞

Professor Peter Wriggers、Leibniz University of Hannover

功績賞

大西 有三 氏 京都大学

坂井 藤一 氏 FS 技術事務所

功劳賞

佐藤 一雄 氏 (独)防災科学技術研究所

川井メダル

鈴木 克幸 氏 東京大学

庄子メダル

山村 和人 氏 新日本製鐵(株)

論文賞

(1) 「GPUによるマルチグリッド法を用いた2次元非圧縮性流体解析の高速計算」

(日本計算工学会計算工学論文集、No. 20090021)

小川 慧、青木 尊之

(2) 「GPUを用いたDEMの高速化アルゴリズム」

(日本計算工学会計算工学論文集、No. 20100007)

西浦 泰介

論文奨励賞

- (1) 上原 拓也「一方向凝固におけるセル状組織形成と応力分布のフェーズフィールドシミュレーション」
(日本計算工学会計算工学論文集、No. 20090023)
- (2) 仲村 岳「均質化法による複合材のクラッシュ解析（その1；大変位弾性問題への適用）」
(日本計算工学会計算工学論文集、No. 20100011)

4. 学会の法人化

2010年4月27日に一般社団法人の登記を完了、法人化としての初年度の基盤作りを行った。

5. 計算工学講演会関係

第15回計算工学講演会を、平成22年5月26日より5月28日まで、九州大学医学部百年講堂において開催し、計算工学講演会論文集Vol.15の刊行を行った。約330件の講演の他、Prof. D.R.J. Owen (Swansea University, UK)による特別講演「MULTI-FIELD COUPLING STRATEGIES FOR LARGE SCALE PROBLEMS INVOLVING MULTI-FRACTURING SOLIDS AND PARTICULATE MEDIA」、および特別企画のパネルディスカッション「スパコンは本当にものづくりに役立つのか?」を行った。また、特別セッションとして「マッチングにより高める！ものづくりの国際競争力」（ものづくりのための計算工学研究会企画）、「ものづくりにおける計算工学活用」（ものづくりのための計算工学研究会企画）、「シミュレーションの品質保証と標準化に向けた取り組み」（HQC研究分科会企画）を企画するとともに、パネルディスカッション「計算工学でものづくりを変える」（ものづくりのための計算工学研究会企画）も合わせて行った。さらに、国際委員会との連携により第3回日韓ワークショップを通常のセッションと平行して行った。そして、平成23年度から実施予定の電子申し込みおよび電子投稿、ならびに論文集のCD-ROM化の準備を行った。

6. 講習会・講演会の開催

本部直轄の研究分科会活動の一環で講習会を2回開催した（第9項参照）。また、「ブリ・ポスト」に関する講習会を開催した。

7. 学会誌の編集と発行

学会誌「計算工学」第15巻2号～4号および第16巻1号を発行した。

8. 論文集の発行

インターネットを通じた論文集の審査、編集作業を行い、論文番号 20100002～20110003 まで、合計 23 件の論文を公開した。

9. 研究分科会の活動

本部直轄の研究会として、「ものづくりのための計算工学」研究会（2 回）、及び本研究会の中の作業部会としての HQC 研究分科会（4 回）、1D-CAE 研究分科会（4 回）が開催された。また、6 月 23 日の総会にて、研究会シンポジウムを開催した。さらに、昨年 12 月 4 日に「1D-CAE による“ものづくり” & “ひとづくり”の革新」、本年 1 月 11 日に「ものづくりシミュレーションの品質向上を目指して」と題して、各研究分科会主催の講習会が開催された。

HQC 研究分科会では、シミュレーション業務の品質マネジメント及び、標準手順書の第一バージョンが完成した。

また、引き続き、第 3 研究分科会（ハイブリット型応力法）、第 17 研究分科会（多目的最適化設計）が開催された。

10. 学会刊行物の企画、刊行

「計算力学レクチャーシリーズ」の続刊として、トポロジー最適化、フェーズフィールド法などのトピックと著者候補を選定し、出版準備を行った。

11. 会員・広報活動

- (1) 会員増強活動として、大学理事による研究室会員の増強活動を推進、会員制度の理解活動策の検討を行った。また、シニア制度の定着に努めた。
- (2) 会員制度の運用・改善の一環として、フェロー制度の案検討、学会誌の入会案内のリニューアル、会費制度の見直し案を作成した。インターネットの活用、学会誌への新会員システムの PR など更なる広報活動を展開し、会員の増強を図るべく努力した。
- (3) 会員システムの運用・改善に関して、現システムのフォロー、会員システムの運用定着化による会員増強を推進した。
- (4) ニュースレターの発行を行い、学会から会員への情報発信を行った。
- (5) ホームページをリニューアルし、定期的な更新を行った。

12. 国際交流活動

(1) IACM との連携強化

- ・ IACM EXPRESSIONS への投稿
- ・ IACM 関連会議の会員への広報
- ・ 他国の IACM 支部および学協会との連携強化
(GACM、COSEIK とのワークショップを企画)

(2) 国際会議等の企画・開催

- ・ 第 2 回 IWACOM の開催 (2010 年 3 月 29 日～31 日：横浜)
- ・ 第 2 回日独ワークショップの開催 (2010 年 3 月 28 日～29 日：横浜)
- ・ 第 4 回日韓ワークショップの開催 (2010 年 5 月 28 日：博多)
- ・ 第 1 回日西ワークショップの企画 (2011 年 3 月 21 日：バルセロナ、震災の影響で延期)

13. 他学協会との連携

- (1) 日本技術者教育認定機構(JABEE)会員として、関連学協会との連携を進めた。
- (2) これまでに引き続き関連 3 学会の連携をより緊密にするとともに、「横断型基幹学技術研究連合会」に参加、活動した。
- (3) 安全工学会委員会に参加した。
- (4) 計算工学の実務適用に関して英国 NAFEMS と連携の検討を行った。

以上

【第2号議案】

平成22年度

決算報告書

自 平成22年4月1日

至 平成23年3月31日

①一般会計

【収入の部】

(単位:円)

項 目	22年度予算	22年度決算	差 額	備 考
会費	11,500,000	13,505,000	2,005,000	特別会員A:10社・B:11社・C:40社、正会員:812名、シニア会員:12名、学生会員:63名、研究室9件(研究室会員53名) 表会費収入:10,153,000(未収金 234,000、23年度会費前受金3,586,000)
研究分科会会費	800,000	800,000	0	ブリヂストン、キャンノン、清水建設
講演会費	5,000,000	5,252,000	252,000	
講習会	100,000	1,348,000	1,248,000	ID-CAE、品質向上、プリ・ポスト
受託研究	0	0	0	
論文掲載料	700,000	690,000	-10,000	
寄付金(学会表彰基金)	0	0	0	
広告掲載料	1,300,000	1,386,000	86,000	
社会保険等預かり金	0	252,937	252,937	事務局(厚生年金・健康保険・雇用保険・所得税)、謝金源泉所得
その他	1,200,000	4,669,872	3,469,872	IWCOM戻入金、複写、会誌別刷り、簿外戻入金 ものづくりシボジウム、会誌別売り、利息他
小計	20,600,000	27,903,809	7,303,809	
前年度繰越金	29,043,254	29,043,254	0	
収入計	49,643,254	56,947,063	7,303,809	

【支出の部】

項 目	22年度予算	22年度決算	差 額	備 考
事業活動費	17,270,000	19,374,652	2,104,652	
研究分科会費	720,000	790,797	70,797	分科会3、分科会17
受託研究費	0	300,407	300,407	
会誌発行費	7,800,000	7,770,395	-29,605	会誌印刷費、送料、掲載謝礼金(図書カード)
会員広報費	400,000	378,000	-22,000	会員システム管理費
論文発行費	300,000	228,294	-71,706	査読謝礼金(図書カード)
講演会費	5,000,000	6,029,888	1,029,888	地方開催に伴う費用増加(業務委託費・旅費交通費)
講習会費	100,000	553,372	453,372	ID-CAE、品質向上、プリ・ポスト
IACM会費	900,000	757,890	-142,110	IACM会費10\$×850名、送金手数料
学協会関係費	300,000	364,205	64,205	NAFEMS会費・送金手数料、日本技術者教育認定機構会費、 横断型基幹科学技術会費、共催分担金、他会費
会議費	150,000	87,450	-62,550	編集委員会食事代
国際会議運営費	0	915,310	915,310	日独WS旅費宿泊費、日韓WS旅費他、日西WS
総会関係費	1,000,000	815,614	-184,386	案内状、会場費、懇親会費、講師謝礼
学会表彰費	600,000	88,830	-511,170	総会時表彰
その他	0	294,200	294,200	編集委員旅費、講演会テブ起し
事務経常費	6,770,000	6,330,730	-439,270	
人件費	4,500,000	3,762,821	-737,179	事務局
什器・備品費	100,000	133,665	33,665	PC他、ウイルスソフト、会計ソフト
通信費	300,000	336,504	36,504	電話代、ADSL代、宅配便代、切手代
印刷費	300,000	286,901	-13,099	コピー機リース、コピーカウント代
消耗品費	70,000	36,748	-33,252	
旅費交通費	0	0	0	
事務所賃料	1,300,000	1,217,784	-82,216	事務局賃料、ロッカー代
選挙費	0	0	0	
租税公課	0	200	200	収入印紙
法定福利費	0	138,430	138,430	事務局(厚生年金・健康保険・労働保険料)
社会保険等預かり金	0	231,929	231,929	事務局(厚生年金・健康保険・年末調整還付金)、謝金所得税
雑費	200,000	185,748	-14,252	WEB手数料、貸金庫、振込手数料他
法人化対応費	3,300,000	1,722,580	-1,577,420	司法書士、法律事務所、HP、芝田会計事務所
計	27,340,000	27,427,962	87,962	
今年度繰越金	22,303,254	29,519,101	7,215,847	23年度会費前受金3,586,000、簿外戻入金3,278,837
支出計	49,643,254	56,947,063	7,303,809	

項 目	22年度予算	22年度決算	差 額	備 考
単年度収支	-6,740,000	475,847	7,215,847	

◆繰越金

項 目	22年度予算	22年度決算	差 額	備 考
繰越金合計	22,303,254	29,519,101	7,215,847	

【第3号議案】

平成22年度

監査報告書

自 平成22年4月1日

至 平成23年3月31日

(第3号議案)

平成23年5月11日

平成22年度 監査報告書

一般社団法人 日本計算工学会
会長 大冨 浩一 殿

(社) 日本計算工学会

監事 竹内 則雄



監事 手塚 明



本学会の平成22年度事業および会計について、定款第14条第4号の規定に基づいて平成23年5月11日、監査を行いました。

その結果、事業報告の内容は適切であり、又、収支決算書の内容は、通帳類、伝票類、証書類等誤りなく記載されており、公正且つ適正に処理されておりますことを確認しましたので、定款第23条の規定に基づいて、ここにご報告致します。

以上

監査報告書

一般社団法人 日本計算工学会
会長 大富浩一 様

小職は平成 23 年 4 月 27 日及び同年 5 月 9 日の両日に渡り、貴法人の第 1 期会計年度(自平成 22 年 4 月 27 日至平成 23 年 3 月 31 日)における会計帳簿並びに原資証憑類の監査(会計帳簿と原資証憑類との突合、会計帳簿並びに会計報告資料の適正性の検証)を、税理士法第 2 条第 2 項に定める範囲内において行いました。

この結果、貴法人の作成した会計帳簿は原資証憑類に基づき複式簿記により正しく作成されており、会計帳簿並びに会計報告資料の適正性は保たれていることを報告します。

平成 23 年 5 月 9 日

事務所所在地 東京都世田谷区駒沢 1 丁目 17 番 17 号 真成ビル

事務所名 税理士法人 芝田会計事務所

代表者氏名 福田和泉

監査担当税理士氏名 酒井和彦

電話番号 03-3412-9515



【第4号議案】

平成23年度

事業計画（案）

自 平成23年4月1日

至 平成24年3月31日

(第4号議案)

平成23年度事業計画(案)

活動方針

日本計算工学会は、平成22年度に法人化を行い、より一層、専門性の深さ(学界)、ものづくり現場(産業界)へ対応すべく活動方針として

『開かれた日本計算工学会』=組織のオープン化+活動のオープン化を掲げた。平成23年度はこれを軌道に乗せるべく、活動を推進する。

(1) 組織のオープン化

法人化により、学会の透明化が今まで以上に要求される。組織としての体制、規則、財政を明確にし、ホームページを通して公開、透明性をさらに確保する。さらに、学会組織を支える事務局体制の強化/所掌の明確にする。

(2) 活動のオープン化

講演会主催、会誌発行、論文集発行といった現在の学会活動の柱に加えて、「ものづくりのための計算工学」を目指した活動を定常化する。この4つの柱により、「計算工学でものづくりを変える」仕組みを構築する。ものづくりへの発信、ものづくりからの受信、ものづくり研究会による研究・技術面での計算工学の広がり、底上げを図るとともに、ものづくりを人的側面でバックアップする教育・資格認証制度(ひとづくり)についても他学協会とも連携して着手する。また、上記活動の成果を順次、出版物として世に出して行く。

上記運営方針を通して、結果として会員の増強につなげるとともに、財政面での改善を目指す(単年度での収支のバランス)。

1. 通常総会及び評議員会の開催

平成23年度通常総会を、平成23年5月19日に、ミューザ川崎シンフォニーホール市民交流室にて開催する。

2. 理事会の開催

平成23年度の理事会は、6回開催する予定である。

3. 表彰

学会賞および奨励賞などの表彰制度の運用については、表彰委員会にて審査し、平成23年度の該当者選考を行う。

4. 計算工学講演会関係

第16回計算工学講演会を、平成23年5月25日より5月27日まで、東京大学柏キヤンパス総合研究棟において開催する。308件の一般講演の他に、HQC研究分科会ワークショップ、および5件のランチョンセミナーを行う予定である。計算工学講演会論文集 Vol.16 は CD-ROM として発刊する。これにともない、従来の紙媒体による原稿提出を PDF の WEB へのアップロードとする。また、参加費の体系を一新する。

5. 講習会・講演会の開催

本学会の活動の成果発信の場として講習会を定期的で開催する。

また、NAFEMS と連携して「ものづくりのための計算工学」国際ワークショップを企画・開催する。

6. 学会誌の編集と発行

学会誌「計算工学」第16巻2号～4号および第17巻1号を発行する。

7. 論文集の発行

インターネットを通じた論文集の審査、編集作業を引き続き行う。

8. 研究分科会の活動

本部直轄の研究会として、「ものづくりのための計算工学」研究会（ものづくり研究会）及び本研究会の中の作業部会として HQC 研究分科会、1D-CAE 研究分科会の継続、各分科会に関係する講習会を開催予定している。さらに、Green CAE 研究分科会、物理シミュレーション&ビジュアライゼーション研究会(仮称)を発足する予定である。また、5月19日の総会にてものづくり研究会のシンポジウムを開催予定である。

引き続き、第3研究分科会（ハイブリット型応力法）、第17研究分科会（多目的最適化設計）を継続する予定である。

9. 学会刊行物の企画、刊行

「続・計算力学レクチャーシリーズ」を企画し、「トポロジー最適化入門」、「フェーズフィールド法入門」、「連立一次方程式の反復解法」、「計算力学のための実用可視化」の各書の刊行手続きを行う。電子出版に関する調査を行う。

10. 会員・広報活動

(1) 会員増強活動として、入会キャンペーンの実施、理事による研究室会員、企業会員増強の強化、会員制度の認知活動(分かりやすい解説の学会誌、HP、ニューズレターへの掲載等)を推進する。

- (2) 会員制度の運用・改善として、シニア会員の活用検討、フェロー制度の準備・開始、会費制度の見直し案実行、正会員への移行促進策実施を行う。
- (3) 会員システムの運用・改善として、現システムのフォロー、会員増強活動、会員制度の運用・改善と連動したシステム改善を行う。
- (4) ニュースレターの発行を引き続き行う。
- (5) 引き続きホームページの更新を行うとともに、管理体制を整える。

11. 国際交流活動

- (1) 英文ホームページの充実を図る。
- (2) IACM との連携を強化する。
 - ・ IACM Expressions への投稿
 - ・ IACM 関連会議の会員への広報
 - ・ 他国の IACM 支部および学協会との連携強化
(USACM 等とのワークショップを検討)
- (3) 国際会議等の企画・開催する。
 - ・ 第 5 回日韓ワークショップの開催 (2011 年 4 月 15 日 : 釜山)

12. 他学協会との連携

- (1) 日本技術者教育認定機構(JABEE)会員として、関連学協会との連携を進める。
- (2) これまでに引き続き関連 3 学会の連携をより緊密にするとともに、「横断型基幹科学技術研究連合会」に参加、活動する。
- (3) 安全工学会委員会に参加する。
- (4) 計算工学の実務適用に関して英国 NAFEMS と連携の検討を継続する。

以上

【第 5 号議案】

平成 23 年度

事業予算（案）

自 平成 23 年 4 月 1 日

至 平成 24 年 3 月 31 日

(第5号議案)

平成23年度 予算(案)

一般社団法人 日本計算工学会

自:平成23年4月1日 至:平成24年3月31日

① 一般会計

【収入の部】

(単位:円)

項 目	23年度予算	備 考
会費	12,000,000	会員増強
研究分科会会費	1,100,000	分科会3、分科会17
講演会費	4,000,000	
講習会(委員会)	4,000,000	直轄委員会にて講習会等企画、NAFEMSほか
受託研究	0	
論文掲載料	700,000	
寄付金(学会表彰基金)	0	
広告掲載料	1,300,000	
社会保険等預かり金	300,000	事務局(厚生年金・健康保険・雇用保険・所得税)、謝金源泉所得
その他	500,000	会誌別刷り、会誌別売り等
収入計	23,900,000	

【支出の部】

項 目	23年度予算	備 考
事業活動費	17,192,000	
研究分科会活動費	990,000	分科会3、分科会17
会誌発行費	7,800,000	会誌印刷費、送料・掲載謝礼金(図書カード)
会員広報費	400,000	会員システム管理費
論文発行費	150,000	査読謝礼金(図書カード)
講演会費	4,000,000	
講習会費(委員会)	1,000,000	講習会開催費
IACM活動費	800,000	IACM会費10\$×850名、送金手数料
広報活動費	280,000	HPの充実他
学協会関係費	400,000	NAFEMS会費・送金手数料、日本技術者教育認定機構会費、横断型基幹科学技術会費、共催分担金、他会費
会議費	0	
国際会議運営費	0	
総会関係費	700,000	案内状、会場費、懇親会費、講師謝礼
学会表彰費	172,000	総会時表彰
その他(NAFEMS会費)	500,000	NAFEMS連携講演会開催費等
事務経常費	6,708,000	
人件費	3,500,000	事務局
什器・備品費	50,000	事務局データバックアップ、電話機
通信費	300,000	電話代、ADSL代、宅配便代、切手代
印刷費	288,000	コピー機リース、コピーカウント代
消耗品費	70,000	事務局備品
旅費交通費	0	
事務所賃料	1,220,000	事務局賃料・ロッカー代
選挙費	200,000	
手数料	420,000	会計事務所
租税公課	10,000	収入印紙、消費税
法定福利費	170,000	事務局(厚生年金・健康保険・労働保険料・雇用保険)
社会保険等預かり金	300,000	
雑費	180,000	WEB手数料、貸金庫、振込手数料他
支出計	23,900,000	